



ねっどわーく



H24. 06. 27 No.20

■「全職員で、長岡小の子どもを育てる」ということ

これまで、どちらかという上のタイトルは、子どもを語る会などでよく使われていたのではないのでしょうか。いわゆる生徒指導面ですよね。

先日の宮坂先生の授業（含む事後研）で、リーダーシップとフォロアーシップについて、石澤先生からもお話がありました。（各学年の年間計画とリンクするという意味からも）

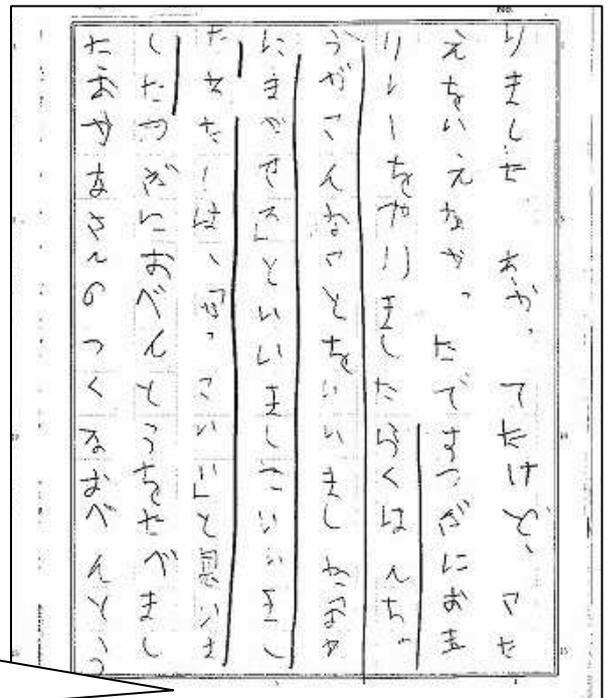
で、いいなあ！すごいなあ！と思ったのが、以下の3点です。（すみません、私が見聞きしたものだけです。）

- ①【4年生】東海林先生が、たてわり活動の後に、クラスの子どもに、
 「6年生、どうだった？」とふり返りを求めたこと
 →「準備どのくらい時間がかかったのかなあ」等
 他者を思う気持ちが出

- ②【3年生】純子先生が、よつばカードに、
 自分のふり返りとともに「6年生ありがとう」と
 まとめてくださったこと → 6年生への感謝と
 自分自身のことが表出



- ③【2年生】石川先生が、日記に、
 今日のことを書いてみようよと、宿題にして
 くださったこと → 6年生へのあこがれが表出



～ふくはんちょうさんが、こんなことを
 いいました。「おれにまがせろ。」とい
 いました。わたしは「かっこいい」と思
 いました。～

本校の子どもの課題に「自己中心的な面がある。（個人差あり）」とありますが、こうしたリーダーとフォロアーの関係が、なんか、あったかいなあと感じたところでした。みんなで育てるって、こういうことかなあ～。（*^_*）
 もちろん、上学年にとっても、そして、将来、上学年になる下学年にとっても、です。